

「快報 風険消息」は、中国に拠点をお持ちの企業の皆様にお届けするリスク情報誌「中国風険消息」の速報版です。

2021年5月17日

雨季の気象予測と防災対策について

1. 2021年 雨季の気象予測

5月から中国は本格的に雨季に入った。大気の活動が活発になり強い雨が降りやすくなるため、暴風や洪水災害への備えが重要となる。表1は主要都市における今年の雨季の気象予測を整理したものである。

表1. 沿海部主要省市の気象予測情報

省市	予測情報
中国全体	国家気候センターが公表する最新の予測によると、今シーズンの台風上陸数はやや多い。今年、北西太平洋や南シナ海で発生する台風は27～29個で、例年(26個)よりやや多い。このうち中国に上陸するのは8～10個、こちらも例年(7個)より多い。台風の全体的な強度は中程度から弱めであり、西北へ向かうルートが主になる。北上する台風の影響により中国では華東～華南地域の沿岸部への影響が大きくなりそうだ。
広州市	影響を及ぼす台風は、3～5個でそのうち1～2個は影響がやや大きい。1個目の上陸は例年よりやや早く6月上旬から中旬にかけて到来、シーズン最後の台風は9月下旬頃と予測される。月別では、6月1個、7月1個、8月0～1個、9月0～1個と予測される。
上海市	今年の雨季は、雨期全体の降水量、梅雨の雨量共にやや多く、台風も多いと予測される。高温の日もやや多くなりそうだ。
浙江省	浙江省では極端な悪天候が頻繁に発生すると予測され、気象災害も懸念される。浙江省に到来する台風は3～5個、そのうち1～2個は大きな影響をもたらさそうだ。
江蘇省	降水量は例年よりやや多い。例年と比べると、淮北地区と蘇南の降水量は多め、江淮地区は例年並みになりそうだ。江蘇省に影響を与える台風も例年よりやや多くなる。
福建省	例年(6.9個)よりやや多い8～9個の台風が到来する。6月にも1個目の台風が到来する可能性があり、夏季には1～2個の台風が上陸して大きな影響を与えると予測される。

(出典) 各省市気象局公式HP、新華社HP、金羊等主要メディアの気象ニュース報道

特に、5～6月にかけて華南地域は「龍舟水」を迎え、特に注意が必要な時期となる。「龍舟水」とは、一般に5月21日～6月20日にかけての降水量が集中することを指す。昨年は5月20～22日、25～26日にかけて広東省では「龍舟水」によって、東莞や広州地区の降水記録を更新する強烈な降水が発生し、甚大な被害をもたらした。

広州市気象部門の予測によると、2021年も集中的に降水が発生する可能性が高く、5月下旬から6月中旬にかけて「龍舟水」が8年連続で発生しそうだ。今シーズン1つ目の台風は6月の可能性が高く、集中豪雨が頻繁に発生して累計雨量も多くなる。土砂崩れや地滑りにも注意が必要である。

表2は、「龍舟水」に関する各種報道の予測を整理したものである。

表2. 広州地区 龍舟水に関する災害予測

期間	日時	降水予測
龍舟水	5.21-6.20	この間、龍舟水により雨量が多くなると予測され、集中豪雨による洪水被害に注意が必要である。北部地域では400-450mm、中南部地域では350-400mmの雨量が予測される(例年は350mm)。
	5.20-5.24	これらの期間、集中豪雨の発生が予想される。(ご参考)
	6.9-6.12	
	6.17-6.19	
	6.24-6.29	
雨季後半	7～9月	例年に比べると、累計雨量は1～3割程度多くなると予想される。北部地域では650-750mm、中南部地域では650-850mmの雨量が予測される。

(出典) 広州日報 (<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1695756206393282193&wfr=spider&for=pc>)

2. 防災対策

台風は非常に強力で、破壊力が極めて大きくなる恐れがある。防災対策を講じていても、不可抗力による被害が発生する場合もあるが、工場への被害を最低限に抑えるために防災対策を講じる必要がある。

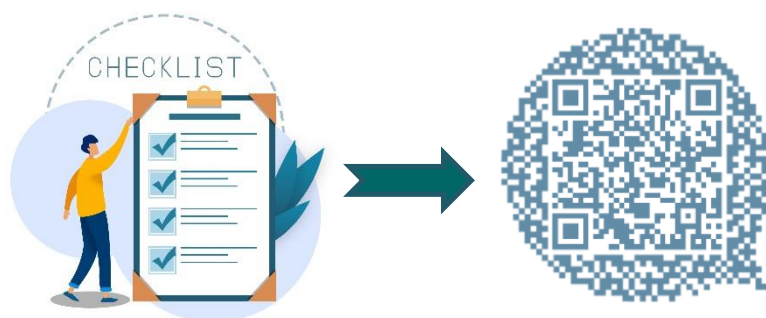
下表を参考に防災対策を実施いただきたい。

防災対策チェックリスト

分類		項目	確認
建物等	屋根	屋根の防水層の劣化や亀裂の点検・修理ができているか。 (特に過去に浸水、漏水があった場所)	
		カラー鋼板等の接合部位に緩みや反り上がりがいないか。	
		屋根の排水溝や下水道に詰まりはないか。	
		避雷設備(避雷針、引き下げ線、接地極など)を点検しているか。	
		屋根周辺の風の影響を受けやすい部位に変形や捲れ、ネジの脱落がないか。	
	外壁	外壁にひび割れや剥がれがないか。留め付け金具に緩みがないか。	
	窓、ドア	風の影響を受けやすい窓やドアはしっかり固定されているか。	
		窓やドアにひび割れや破損がないか。破損している箇所は修復されているか。	
		面積が広い窓ガラスは、木板を打ち付けて補強する対策が取られているか。	
		ガラス割れ・飛散防止に、テープを貼り付ける等の対策が取られているか。	
	シャッター	耐風性を高めるため、支柱を設置するなどの補強を行っているか。	
		ガイドレールに腐食がないか。シャッターをスムーズに開閉できるか。	
	仮設建物	水濡れの恐れがある仮設建物に、貨物や生産設備等を保管していないか。	
	屋外	屋根の看板、排気管、吊り物などを補強し、強風で倒れないように固定措置を行っているか。	
敷地内の旗竿、カーポート、樹木などの補強を行っているか。			
貨物、在庫品等	屋内保管	在庫は外壁、窓から少なくとも0.5メートル離れているか。	
		屋内の配水管の直下に重要な設備や在庫品が置かれていないか。	
		高価な精密機器設備や原材料、製品等は、パレット上に置くなどして少なくとも30cm以上嵩上げしているか。	
		屋外の水が屋内へ浸入するのを防止するため、作業場、倉庫、電力設備などの建物入口に十分な土のうや遮水板(20cm以上)を設置しているか。	
		緊急時に物資を守るための防水シート・カバーなどを用意しているか。	
		重要な生産データ等はバックアップを安全な場所に保管しているか。	
	屋外保管	台風が来る前に、屋外の保管貨物を屋内の安全な場所に移動させているか。	
		強風で飛ばされやすい保管物について整理整頓、清掃を行っているか。	
		屋内への移動が難しい保管物は防水シートでカバー・固定しているか。	
	排水等	排水ポンプと十分な燃料を準備しているか。	

	構内の水が溜まりやすい場所（土地が低い箇所、排水管の径が不十分な箇所など）を把握しているか。水が滞留した場合の対応を検討しているか。	
	建物周辺・屋上の排水溝は詰まっていないか。	
	外部の排水が構内に流入しないよう、公共の排水システムに繋がる排水系統に、排水の逆流防止バルブを設置しているか。	
緊急対策	気象情報や、工場周辺の河川や湖の水位上昇をモニタリングしているか。	
	緊急対応チームを組織し、役割を明確にしているか。チームメンバーには、災害警戒要員、緊急指揮要員、災害救助要員、事後復旧要員が含まれる。	
	気象警戒レベルに沿った行動プランを整理しているか。（例：青色暴雨警報＝工場の屋根の状況を点検開始 赤色台風警報＝生産停止に備えた準備を開始し、人員を移動する等）行動プランを文書化し、社員に周知しているか。	
	屋内パトロール計画を策定し、屋根の漏水状況、排水管の排水状況、地上の冠水状況などのチェックし、適宜報告するルールがあるか。	
従業員避難 防災訓練	構内が広く浸水した場合を想定した避難に関する教育や訓練を実施しているか。	
災害復旧計画 (BCP)	ハード面の対策に加え、災害が発生した後の早期復旧を行うための対応手順や、工場が被災して生産不能となった場合の代替生産の可否などについて検討しているか。	

上記のチェックリストは、微信のQRコードからダウンロードできます。



参考資料：

- 1、各地気象部門の公式ホームページ、各メディアの報道
- 2、表紙イラストは千図網（www.58pic.com）の許可を得て使用しています。

以 上

執筆 インターリスク上海 コンサルティング部 高級経理 楊奥

瑛得管理諮詢（上海）は、中国・上海に設立されたMS & ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスを提供させて頂いております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

<お問い合わせ先>

瑛得管理諮詢（上海）有限公司（日本語表記：インターリスク上海）
上海市浦東新区世紀大道100号 上海環球金融中心34楼 T10室-2
TEL: +86-(0)21-6841-0611（代表）



瑛得公众号